

保護者等からの事業所評価の集計結果 (公表)

公表: 令和6年3月12日

事業所名 つみき第6 保護者等数(児童数) 10 回収数 8 割合 80%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	7	1			
	②	職員の配置数や専門性は適切である	8				
	③	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされている	7	1			
適切な 支援の 提供	④	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画が作成されている	8				
	⑤	活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	8				
保護者 への 説明 等	⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	5	1		
	⑦	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	8				
	⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができている	8				
	⑨	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	8				
	⑩	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている	4	3	1		
	⑪	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	3		「苦情について見聞きすることがなく、また他の保護者と話すこともなくよくわからない」	保護者会を開催した際に、今まであった苦情について共有したり、保護者間で話し合う機会をもつ。
	⑫	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	8				
	⑬	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信している	7	1			
非常時 等の 対応	⑭	個人情報に十分注意している	8				
	⑮	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されている	6	2			
満足 度	⑯	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	7	1			
	⑰	子どもは通所を楽しみにしている	8				
	⑱	事業所の支援に満足している	8			「通う日数をもっと増やすことができれば助かります」	空きがない場合はキャンセル待ちで対応させていただき、空きが出た際には迅速に案内を行う。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け放課後等
デイサービス自己評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和6年 3月 13日

事業所名 つみき第6

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	3			大きい車椅子の利用児が来所するとスペースが狭く感じることがあるので、車椅子を置く場所や入る順番を来所する利用児に合わせて変えている。
	②	職員の配置数は適切である	4	1			
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	2	3	階段の上の出口用に災害用に折り畳みスロープを置き、避難訓練時に実際に使用している。	
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	2	3		利用児お迎え前に職員間で情報共有を行っている。	
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5				
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	1			
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		3	2		
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	1			年間を通して研修が行われているが、重心や医療ケア児に関する研修はないので、職員が外部の研修を受けたり新たな情報を知った時には情報共有を行っている。
適切な 支援の 提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5			部会の時にできるだけ多くの職員で意見を出し合い計画を作成している。	
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	3	1	法人で使用しているツールでは重心の子ども達のアセスメントを行うことが出来ないため、独自のアセスメントツールを使用している。	
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	2	3			
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	1		週ごとに活動の種類を変え、同じような活動に偏らないようにしている。	
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5			長期休暇中は平日できないような活動（長時間かかる、複数人で行う、外出など）を行っている。	
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5				一人ひとりの状況に合わせて計画を立てているが、職員数によっては個別活動が難しいことがある。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	3	2			
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している			5	終業時間が職員によって異なるため、支援終了後に振り返りは行わず、共有のノートや部会で意見を出し合っている。	
⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5			パソコンの同じフォルダ内に支援の記録と看護の記録を書くようにしている。		
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5			部会で対象の利用児について意見を出し合っている。	
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	4	1		気候によって外出の頻度が少ない季節もあるが、できるだけ偏らないように支援を行っている。	
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	2	3			
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	5			下校時に担任や担当職員に本人の状態を聞き、学校でどう過ごしたなど積極的に尋ねている。	
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5				

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	3		つきみ第2に通所していた利用児の場合は、通所前に第2に行き情報共有及び本人の接し方について引継ぎを受けている。つきみ第2以外に通所していた場合は通所先から発行された計画書などを保護者よりいただいている。	
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	3	1		
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている			5		
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	3		近隣に児童館があるものの、車椅子の子どもを受け入れる環境が整っておらず、現在は児童館への訪問は行っていない。公園が徒歩圏内に2か所あるので、現在は散歩に行った時や遊具で遊ぶ際に、偶然居合わせた子どもや近所の方とあいさつをしたり会話を行っている。交流の際には、しっかりと相手の顔を見てあいさつや会話ができるように、子どもの顔の向きをサポートしている。	
	㉗	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している			5		
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5			送迎時や面談時の保護者との情報共有を丁寧に行うようにしている。子ども達がどのように過ごしていたか、どのような反応を見せていたかといった子どもの様子や、職員が読み取れなかった子どもの行動の意図や過去と比較して成長していることなどを保護者に伝え、現在の状況を正確にとらえるようにしている。	
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			5		
保護者への説明責任等	㉚	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	2			
	㉛	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	1	4			保護者から相談があった際には、その場では回答が難しい場合はいったん事業所に持ち帰り、後日回答することがある。
	㉜	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		3	2		保護者会の開催が出来なかったため、来年度は保護者会を開催し、保護者同士・職員保護者間の意見の交換や交流を深めたいと考えている。
	㉝	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	3	2			ほとんどの苦情やご指摘が、個人に対する不備(忘れ物やオムツ・バットの当て方のズレ等)なので、ほかの保護者に周知するというのではなく、職員間で共有し気を付けている。
	㉞	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5				
	㉟	個人情報に十分注意している	5				
	㊱	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			子どもから保護者ヘイでの過ごし方を話すことが難しいので、出来る限り丁寧に職員から保護者に話すようにしている。	
非常時等の対応	㊲	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			5		
	㊳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	1			マニュアルの存在を保護者に紹介する機会がないので、来年度保護者会を開催した際にはマニュアルについて説明し、周知したいと考えている。
	㊴	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	1		災害時の避難訓練に加え、体調の急変時を想定した訓練を実施している。施設で被災・急変が起きたときに加え、送迎時に被災・急変が起きたことも想定して車バージョンの訓練を行っている。	訓練の頻度が少ないため、全員が参加できていないので、訓練の機会を増やす。
	㊵	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5				
㊶	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	2				

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
④②	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5				
④③	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	2		他部署のヒヤリハットも含め職員間で情報を共有し、気を付けようという意識を持っている。	

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。